

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690200185		
法人名	社会福祉法人 白寿会		
事業所名	グループホーム和		
所在地	鹿児島県薩摩川内市中福良町2911番地1		
自己評価作成日	平成23年1月17日	評価結果市受理日	平成23年4月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kagoshima-kaigonet.com/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島		
所在地	鹿児島市真砂町34番1号 南光ビル303号		
訪問調査日	平成23年3月10日	評価確定日	平成23年4月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者がこれまで培ってこられた生活習慣や人との関わり等を尊重し、理解に努め、ありのままを受け入れ安心感を得ていただけるよう配慮しています。
認知症により失われつつある身体面、精神面への支援を通して、ご利用者自ら楽しみや生きがいが、生きる活力を見い出せるような関わりを目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然豊かな場所に建てられたホームで、敷地内に同一法人の特別養護老人ホームやデイサービスがあり、他のサービス利用者とも交流することができる。地域の防災協力体制に参加しており、災害時にはホームを避難所として活用し住民を受け入れることが可能となっている。職員は各委員会に所属しており、より良いケアを目指して研鑽を重ねながら、さらなるサービスの質向上に向けて熱意を持って取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業計画の中にも掲げ、ご利用者の支援や自分達の仕事に対する原点とし、会議等において常に意識している。	理念をホーム内に掲示し、日常的に意識するようにしている。職員会議やケース会議の際に、理念に基づく具体的なケアの方法について話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的交流まではできていないが、自治会加入後、防災時の話し合い、周辺美化活動、祭事などに参加している。	自治会に加入し、回覧板や公民館長から地域の催しの情報を得て、秋祭りなどに参加している。同一法人のデイサービス利用者やボランティアの訪問もあり、住民と交流する好い機会となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方へ認知症の方への理解を深めていただき、また、どのような接し方が望ましいのか等の講演を行った実績がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ねできていると思うが、事業所の報告のみに終わることもあり、改善の余地がある。	会議は定期的開催されており、住民代表や行政担当者、利用者及びご家族代表が参加し、ホームの活動内容や計画を報告している。会議の中で出された提案や意見に対しては積極的に取り組み、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	重要な報告や法令に関する疑問点等、各部署ごとに相談できる方を作っている。	疑問点や制度上の不明点など、その都度担当者に相談している。また、地域包括支援センターの職員に対しても、問題ケースの相談や地域の高齢者の状況等の情報交換を頻繁に行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束原則禁止は法人内で統一しており、当事業所においても身体拘束の禁止を宣言している。	法人の身体拘束廃止委員会に参加し、事例検討を行っている。いかなる理由があろうとも、身体拘束は行わないという方針を職員間で共有している。玄関は、夜間の防犯目的での施錠以外は開放しており、自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内での勉強会で関連法を学ぶ機会を作っている。自宅での虐待が疑われる場合は待機順位を繰り上げたり、ご利用者へは個別に話しをする中で話題の一つとしてお聞きしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者のみ、その機会を得ている。今後は成年後見制度の仕組みも共有し、ケースに備えたいと考える。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	締結、解約においては十分な説明を行っており、理解・納得いただいている。改定はまだない。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者においては個々または全体で意見・要望等を聞く機会を設けている。ご家族等においては面会時、お時間をいただき話しを聞いている。玄関にはご意見箱を用意してある。	運営推進会議に参加していないご家族には、後日会議の内容をお知らせしている。またご家族の面会時には必ず声かけを行い、利用者の現状を報告するとともに、ご家族からの意向や要望を聞くように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員からの意見等を会議また個々とのコミュニケーションなどから聞き、取り入れたい意見等は、週1回、代表者と話し合いを持つ際、報告している。	月一回のケース会議を職員からの意見や要望を聞く機会としており、新規利用者の受け入れに際しては、職員に報告・相談している。管理者は、職員との良好な関係づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の総合的な職場環境の改善に努め、実践している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外で研修・勉強会の機会は多く、資格取得も推奨している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	勉強会や相互訪問まで至らないが近隣のグループホームとは友好的関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接、施設見学で困っている事等をお聴きし参考にしているが、関わりながら探っていくようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接、施設見学で困っている事等をお聴きし参考にしている。また、面会時や電話等において生活の様子を伝える際に聴き取りもおこなっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	なるべく詳細まで聴き取るように心掛けており、当事業所でのサービスが適当であるか職員全員で検討をおこなっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	なるべく、ご自分の持っている力やできる事が活かせるよう工夫した関わり方をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人・ご家族また職員の思いがパラバラではより良い支援は望めない。特にご家族へは施設へ入居された後も面会や行事参加等において関わりを保っていただければお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人や縁のあった方等に来ていただいたり、自分の家の確認、ご近所周り、墓参り等の支援をおこなっている。	友人や知人に面会に来てもらったり、友人宅へ訪問する機会を作るなど、馴染みの人との関係継続に取り組んでいる。また、ご家族の協力を得て、馴染みの美容室や温泉に行く機会も作っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自分の事で精いっぱいと言われながらも、ちょっとした手伝いや気遣いの言葉かけ等が見られ、それを観たり、聴いた職員は褒めるようにしている。人間関係は席の場所等を工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	移行先への転居と同時に契約終了する事例が多く、実際転居後は先方にお任せしている。転居がスムーズにできるよう細かな調整や不安解消等の助言はおこなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的に聴き取り調査をして思いや意向の把握に努めている。困難なケースではご家族に助言をいただき検討している。	嗜好調査を実施したり、生活上の希望や不満を聞く機会として三ヶ月に一回の個別面談を行っている。意思疎通の困難な利用者に対しては、ご家族からの情報をもとに、サインや表情の変化を把握し、職員間で情報共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご本人、ご家族、サービス提供者等へ聴き取りをおこない経過把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の関わりにおいて現状把握に努めている。特に心身状況においては多様なパターンがあるため、職員間で変化の兆しやいつもと違う様子等情報を共有するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング時にご本人、ご家族の意見・要望を聴き、サービス担当者会議または職員間でおこなわれるミーティングでの意見等を反映させるようにしている。	本人やご家族の希望や要望を聞き、毎月担当職員がモニタリングを実施して、介護経過記録をもとに状態に即した介護計画を作成している。計画を確認しながら経過記録の記入ができるように、記録の工夫もなされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきの記録は計画作成上多くのヒントを残すため重要な位置づけをしている。職員間では回覧をしており、概ね情報の共有はできている。要点を得ながら簡素化を目指している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズ対応では人間的な事やご利用者ご家族間の複雑な事情により、直にお応えできない部分がある。今後は、サービス環境を整えあらゆる問題に対応出来るようにしていきたい。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人ひとりに対応出来ていない現状であるが、地域の習い事に定期的に参加され生きがいがいわれているご利用者もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に必要な心身の情報を提供し、適切な医療を受けていただけるようにしている。また、専門医等の受診は希望に沿うように支援している。	本人及びご家族が希望するかかりつけ医となっている。専門医の受診が必要な場合は、かかりつけ医から紹介状を書いてもらい、ホームでの状態に関する情報提供を行い、適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師に相談をすることがあるが、直接主治医と情報のやり取りをする事が多い。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域医療連携室の担当者等と、ご本人・ご家族の要望等を踏まえた上で相談及び情報交換をおこなっている。また、関係づくりの重要性を認識している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に対しての事業所の方針を定め、ご本人・ご家族に説明をおこない了承を得ている。また、事業所の方針は契約前段階で説明している。	重度化や終末期に向けた事業所の方針として、「入退居の方針」を定めており、事業所ができることを契約前に明らかにしながら説明し、同意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを基にしたシミュレーションをおこなっている。事例が起きた際は、対応の振り返りを徹底し、身に付けるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ご利用者のADL及び認知度等を考慮し、最善で最短、安全な避難方法をマニュアル化共有している。事業所加入の自治会へは協力をいただけるようお願いをし、了解を得ている。	スプリンクラーや自動通報装置等が設置されており、年二回、消防署の協力の下で通報・避難・消火の訓練を実施している。隣接する施設との協力体制は確立されているが、今のところ地域住民の参加はない。	地区の防災会議へ出席するなど、地域との協力関係はできているので、さらに具体的に住民の理解を得ながら訓練に参加してもらえるように働きかけていただきたい。また、訓練に参加した職員の把握を確実にし、全職員が避難の方法を身につけることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	否定を前提にしたり、職員主導の物の考えを押し付けないようにしている。不適切な対応があった場合は職員間で注意し合えるようにしている。	汚物処理や不潔行為時の対応方法について、職員会議等で話題に出し、利用者の自尊心を傷つけないように話し合っている。居室のポータブルトイレの保管状態やトイレ使用時のドアの開閉など、プライバシー確保の点から課題が残る。	夜間のみ使用するポータブルトイレについて、日中の時間帯は目に付きにくいような保管方法を検討していただきたい。また、トイレ使用時は、ドアの開閉支援やその他の目隠しで、利用者のプライバシー確保に努めることが望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から何でも話していただけるように、会話や言葉かけを工夫し、何事も自分で決めていただけるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の理念に沿った考えでもあり、職員も理解はしている。ただ、提案という形で示し、自己決定していただく部分はある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者自身にお任せしているが、服選びや整容においてはアドバイスさせていただく事がある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的に嗜好調査等を行ったりして個人の嗜好把握をしている。現状は、できる部分をしていただいているが、自発的な部分が少なく職員主導は否めない。	法人の管理栄養士が作成した献立を参考に、その日の利用者の希望やご家族からの差し入れ等によりメニューを決めている。誕生日には本人の要望を取り入れたメニューとしており、利用者の楽しみとなっている。食事中は、職員が利用者にも声をかけるなどして、楽しい雰囲気作りを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取状況は記録し、変化を読み取れるようにしている。献立は法人の管理栄養士にご利用者の嗜好を入れながらバランスの良いものを立案してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアはほとんどの方が自発的にされている。口腔清潔においてはご利用者にもレク等の時間に説明し関心を持っていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により、パターン把握に努め、自発的に排泄の訴えができないご利用者もトイレに座っていただくようにしている。	チェック表を使って排泄パターンを把握し、個別の排泄リズムに合わせてトイレ案内するように取り組んでいる。おむつからリハビリパンツや夜間のみパット使用など、自立に向けた支援を積極的に行っている。尿意や便意の無かった方から、自発的な訴えが聞かれるようになったケースもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が及ぼす影響を職員が把握しており、適度な運動、食事、水分量等を意識して提供している。間隔が長いケースは主治医へ相談して一時的に薬を出していただく事もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	理想として「入りたい時に入っていただく」という考えであるが、人員体制面において職員主導とならざる得ない面が少なからずある。	日曜日以外は、日中入浴可能となっている。利用者の状態や希望によっては、いつでも入れるように柔軟な対応がなされている。また、ご家族の協力を得ながら温泉に出かけるなど、入浴を楽しむ支援も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基本にご利用者のペースで休息はしていただいている。夜間帯において安眠できない場合等には無理に寝ていただくず、お飲物等を出してリラックスを図ったり、職員が話を聴いたりして対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬への関心は職員も強く概ね理解していると考えている。また、処方直ぐ確認が出来るようファイルを作っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	例えば、レクの時間と称して職員主導すれば昔の趣味や楽しみ事をされたりするが、自発的にそれらをされる方が少ない現状であり、事業所の課題でもある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	事業所の買い出し等へは希望者を交代でお連れし気分転換等をしていただいている。外出においては基本にご家族の協力のもとおこなうが、諸事情を考え事業所に対応する場合がある。	買い物やごみ捨て、回覧板届けなど、外出の機会を多く設けている。また、ホーム周囲の草取りや散歩を日課とする方、近くのお地蔵様をお参りする方などもあり、希望に合わせて戸外に出かけられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本ご利用者とご家族による管理とさせていただきます。依頼があった場合は買い物にお連れしたり、代わりに買い物をする場合があります、必ずご本人、ご家族の確認をいただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話の要望があればそれらが出来るように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有部分の清潔・整頓を心がけている。特にテレビ等の音は騒音になる場合があるので状況等を観ながら調整をまめにしている。また、温度においても同様をしている。	天井の高い食堂の一角に和室が設けられており、明るい空間で楽しく語らえる場所となっている。ホームの周囲は、車イスでも出られるように回廊型のデッキが設けられ、周囲の畑や木々を眺めながら季節を感じられるように工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	場所はあるが、利用される方はほとんどおられない現状である。利用者同士は居室または共有空間を利用し交流されている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には自分の家で慣れ親しんできた環境を出来るだけ再現していただけるようお願いしている。また、不都合や気分転換のため模様替え等をご本人の意思に基づき実施している。	ベッドやテレビ、位牌、ロッキングチェア、テーブルなど、利用者が使い慣れた物を持ち込めるように支援している。好みによっては畳部屋とするなど、希望に応じながら心地よく過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ADL等を勘案し部屋の位置を提案し生活圏を確保したが満床となった現在は難しい。居室、トイレ、浴室等の表示を絵と文字で分かるようにし、自分で行ける工夫をしている。		

目標達成計画

作成日: 平成 23 年4月11日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害対策において、今のところ地域住民も参加する防災訓練等ができていないので自治会とも協議し合同訓練等が早期に実施できるようにしたい。また、全職員が訓練に参加できるよう配慮し、避難方法を身に付けられるようにしたい。	年に1回は地域住民の方も参加する防災訓練を実施する。	地域の防災会議等に参加し、ご協力とご理解を仰ぎたい。実際の訓練においては、事前にご近所等に参加協力をお願いしたい。地域との協力体制が進んでいる他のGHの方法も参考にしたい。訓練は職員全員が参加できるよう勤務を調整して対応したい。	12ヶ月
2	36	居室のポータブルトイレの保管状態やトイレ使用時のドアの開閉等、プライバシー確保の点が課題として挙げられる。	トイレ使用時、ご利用者のプライバシーが確保できるように配慮したい。居室ポータブルトイレにおいてはそれと分かりにくいよう工夫をしたい。	トイレドアの開閉が苦手なご利用者についてはその行動を察知した職員が対応する。車椅子のハンドル部が開閉を妨げる点においてはカーテンによる目隠しで対応済。居室ポータブルトイレにおいてはカバーを作成し、一見何か分からないように対応済。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。